

図書波だより

第 67 号

平成13年12月28日
愛媛大学附属図書館

目 次

乱読・濫読・RUN読

— はげめよ、伊予の読書人 — …………… 1	学術講演会を開催…………… 6
シリーズ学部資料室紹介（6）工学部② …… 3	本館からのお知らせ…………… 6
電子ジャーナルの利用について …………… 4	附属図書館自己点検・評価報告書を刊行 …… 7
西條誌稿本CD-ROM完成 …………… 5	附属図書館委員会…………… 8
「えひめITフェア21」に出展…………… 5	図書館日誌（会議，研修）…………… 8

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/>

乱読・濫読・RUN読 — はげめよ、伊予の読書人 —

福 田 安 典

「最近の若者は本を読まない」と言われて久しい。私も学生時代に言われたので、私もその「本を読まない世代」であるのだろうか。確かに、友人にそれとなく聞いてみても、このありがたくない称号はいたしかたがないとの意見が多かった。そこで、その本を読まない世代の一人として、半分開き直りながらも「本を読む営み」について考えてみたい。ただし、私は大の本好きであることを最初に断っておく。

本というのはまことに不可思議なものである。本嫌いだという人の中にも、実は本の内容については関心の強い人もいる。「今はやっている〇〇という本、読んでいたらその内容を簡単に教えて」と無心されることも一度や二度ではない。寺山修司は、人は本の内容は知りたいが、読むのが面倒なので、その手間を省くためにいかに、多くの手間をかけて読

書機を発明したかというカリカチュア映画を作ったが、現代人でも本の内容についての関心までも無くしているわけではない。愛媛に生活していれば、たとえ「坊ちゃん」を読むのはイヤでも、そのストーリーやエピソードなどを知って「松山はそんなに悪い土地柄か」などの議論にふけるのは、それなりに楽しいことであろう。

では、内容ではなく、本そのものを読む魅力とは何だろうか。職業柄、知人には本好きが多くいて、彼らの読書量は半端ではない。その一人が「最近の学生は本を読まなくて困ったものだ」と愚痴をいうので、「なぜ、本を読まなければいけないのか」と尋ねると、不思議な顔をして「当然、言わずもがなのこと。本は人の心を豊かにし、人格陶冶に役立つ」との答えが返ってきた。その友人は、読書量は多いが、少し子供っぽくて心がとても狭い

人物であったので、なにか不思議で滑稽な感じさえした。

私のもっとも尊敬する読書人は、早世した演劇研究者の時松孝文という人だが、彼に読書の魅力を聞いたことがある。彼の答えは「子供の頃に読んだ世界文学全集の楽しさが忘れられないから」という意外なものであった。先日、墓参りかねて彼の実家を探ねると、やはり彼の愛読した文学全集があって、その手垢ですれた背表紙を見ていると、時松少年がワクワクしながら読んだ姿が想像され、後年に彼が持ち得た豊かで優しい感性はこの全集がもたらしたのかと思った。思うに、世界文学全集というのは、本当にいろんな国の色んな話が採録されていて、その全集を愛読することはいきおい乱読にならざるを得ないであろう。それは、一つのジャンルにこだわって読み耽り、そのジャンルについて一家言を持ち、その作家もしくは作品を自分の精神の血肉にしようとする先の知人のありかたと全く逆の読書である。ところが、時松さんのいうように、実はこの乱読こそ読書の魅力であるのかもしれない。本を読むことが、自分の心を豊かにするだとか、感性を磨くかとか、作者の心の叫びを魂で感じられるだとか、そんな肩肘を張った読み方よりは、楽しくワクワクしながら読む乱読の方が本当の読書の楽しみではあろう。誰の気持ちもよく分かった時松さんの許容力は、この乱読での一字一字を追うことによって、多くの考え方に触れることから生まれたのじゃないかと、彼の笑顔を憶いながら九州をあとにした。

この無目的に一字一字を楽しむ乱読を経験した人は多いはずである。今ほど娯楽がなく、テレビも少なく、家や学校、運が良ければ近くの図書館があれば、とりあえず暇にまかせてその本を読む。それが必ずしも自分の好きな本ではなくとも、とりあえず食い入るように読む。それは、「読まない世代」が暇なときについテレビを見る、漫画を読むという行為と似ている。しかしながら、この乱読という行為と、ダラダラとテレビを見るという

行為は、似ていてそれでいて何かが違うように思えるのである。その違いは何なのかは、やはり「読まない世代」のゆえであろうか、明確には言い得ないが、何かが違う気がする。

話を専門の世界に変えると、伊予の昔の人はよく本を読んでいる。附属図書館に寄託されている堀内文庫の調査をしていても、よくもこれだけの本をあの興居島で読んだものだと感嘆したし、正岡子規などはその典型だし、司馬遼太郎の『坂の上の雲』で秋山好古が大坂の教員試験をトップで合格した際に「よく出来る」と誉められ、「あしの国ではあしのような者は箕ですくうほどおりますら」と答えたセリフなどはその象徴であろう。愛媛を訪れた司馬さんが、この場面を思いつくほど、愛媛には好文の空気が漂っているであろう。また、松山藩士の読書量のすごさについては、教育学部の加藤國安先生がまとめられた「明教館・松山藩学校漢籍目録」（愛媛県立図書館刊行）及びその解説に詳しい。この伊予人の読書は、もちろん立身のためであっただろうが、決してそれだけではないようである。先にいうところの乱読が好きだったのであろうと、愛媛県内のあちらこちらを調査するたびに思うことが多い。先日もある俳人の蔵書を見にいったが、俳句関係だけではなく、哲学や世界文学全集から推理小説まで、それもかなりの量で、きちんと読まれた跡があり驚かされた。愛媛を包む柔らかい空気、俳句人口の多さなどは、やはり伊予人が愛し続けてきた乱読の余韻であろう。それは、司馬さんや私の住んでいた河内にはないものである。河内には今東光という作家がいて、あれこれ河内の悪口を書いたが、「こんなに住んでるところの悪口を書いて大丈夫ですか」と聞かれて、「大丈夫。ここのヤツは本なんか読まないから」と答えたというエピソードさえも残っている。それに比べると愛媛の風は優しい。その原因は、司馬さんの感じたように、乱読により醸成された好文の空気が肌に快いからだと思われる。この心地よい空気が残るように、愛媛には乱読の風が吹いて

いて欲しいと思う。内容のみを知るためではなく、一字一字食い入るように読むことが、実は考え方の異なる他人の言葉を真摯に受け

止めることであるのだから。

(ふくだ やすのり 教育学部国語教育助教授)



シリーズ 学部資料室紹介 (6) 工学部②

今回は、工学部の機能材料工学科、応用化学科、情報工学科の資料の利用について紹介します。なお、建物配置図は66号を参照してください。

(1) 機能材料工学科

機能材料工学科共通となっている雑誌のうち、バックナンバーは図書室・技官室(本館5階509)に、新着雑誌は学科事務室(本館5階506・507)に所蔵されています。こちらの雑誌を利用する場合は、事務官または技官の了解を得て利用してください。

その他の資料は各教官研究室に所蔵されています。教官研究室所蔵の資料を利用する場合は、図書館1階の資料サービス係または学科事務室で教官研究室の場所の案内を受けて、研究室へ出向き、教官に利用したい旨を申し出てください。

学科事務室の場所がわからない場合は、図書館1階の資料サービス係にお尋ねください。

機能材料工学科の所蔵雑誌タイトル数は約91種、図書は約2,870冊です。

(2) 応用化学科

応用化学科共通となっている資料は、資料室(学科事務室と同室。1号館2階209)に所蔵されています。資料室の利用時間は9時～17時(土・日・休日を除く)です。資料を持ち出す場合は必ず貸出簿に必要事項を記入し、返却時には返却日を記入して、資料を元の場所に戻してください。わからないことがありましたら、学科事務室に申

し出てください。

その他の資料は各教官研究室に所蔵されています。教官研究室所蔵の資料を利用する場合は、図書館1階の資料サービス係または学科事務室で教官研究室の場所の案内を受けて、研究室へ出向き、教官に利用したい旨を申し出てください。

学科事務室の場所がわからない場合は、図書館1階の資料サービス係にお尋ねください。

応用化学科の所蔵雑誌タイトル数は、約122種、図書は約1,450冊です。

(3) 情報工学科

情報工学科共通となっている雑誌は、4号館3階301号室に所蔵されています。こちらの雑誌は原則として閲覧のみの利用です。利用する場合は学科事務室(4号館3階305)に出向いて職員の指示に従って利用してください。貸出を希望する場合は学科事務室の職員にその旨を申し出てください。

その他の資料は各教官研究室に所蔵されています。教官研究室所蔵の資料を利用する場合は、図書館1階の資料サービス係または学科事務室で教官研究室の場所の案内を受けて、研究室へ出向き、教官に利用したい旨を申し出てください。

学科事務室の場所がわからない場合は、図書館1階の資料サービス係にお尋ねください。

情報工学科の所蔵雑誌タイトル数は、約292種、図書は約8,850冊です。

電子ジャーナルの利用について

インターネットの普及により電子ジャーナルが急激に進展してきました。まさしく大きな波となって押し寄せてきた感があります。

本学図書館でもできる限り電子ジャーナルが利用できるよう努力してきました。システム管理系の協力により、冊子体を購読することによって利用できる電子ジャーナルは、すべて図書館のホームページから手軽に利用できるようにしたのをはじめ、国立情報学研究所が提供する英国物理学会の雑誌（2000年）、Oxford University Press の雑誌（2001年）、Elsevier Science の S D 21（2000年－2001年）と、各種の試験提供にも参加しました。

しかしながら、2002年からはElsevier Science のScienceDirect をはじめ、大手の出版社の電子ジャーナルが有料化されることから、これまでのような利用ができなくなります。このため全国レベルでの取組みとして、国立大学図書館協議会では、電子ジャーナルタスクフォースを設置し、各出版社に対して有利な条件で電子ジャーナルサービスが受けられるよう交渉し、各出版社毎のコンソーシアムを形成する活動を行っています。

本学図書館においては、図書館委員会の承認を得てこれらのコンソーシアムに参加することにより、一部医学部のみという条件付きではありますが、2002年1月から次の出版社の電子ジャーナルが利用できるようになります。

1. InterScience (John Wiley)

利用可能数：327タイトル

本学購読数：延べ30タイトル

コンソーシアムに参加し、所要の追加料金を支払うことで、327タイトルすべてが利用可能となりました。

2. LINK (Springer-Verlag)

利用可能数：396タイトル

本学購読数：延べ66タイトル

コンソーシアムに参加し、所要の追加料金を支払うことで、396タイトルすべてが利用可能となりました。

3. Synergy (Blackwell Publisher)

STM (Science, Technical & Medical)コ

レクシオン

利用可能数：331タイトル

本学購読数：延べ47タイトル

コンソーシアムに参加し、所要の追加料金を支払うことで、331タイトルすべてが利用可能となりました。

S S H (Social, Science and Humanities) コレクシオン

利用可能数：263タイトル

本学購読数：延べ50タイトル

これについては、契約条件である2001年の購読額（キャンセル率2%）が維持できていないため、コンソーシアムに参加して全タイトルを利用するには至りませんが、所定の手続きをすることによって、これまでどおり本学の購読誌は利用可能です。

さらに、医学部キャンパス内からは次の出版社の電子ジャーナルが利用可能です。

4. ScienceDirect (Elsevier Science)

コンソーシアム参加の条件は2001年の購読額を維持することでしたが、本学の場合2002年の中止額が大であり、大学全体としてコンソーシアムに参加するには、追加経費がかなり高額であるため断念せざるを得ない状況となっています。

ただし、医学部においては、医学部教官各位のご尽力により、医学部の購読誌全てが利用できる上、次の医学関係4分野の電子ジャーナルが利用できる契約が可能となりました。

○Biochemistry, Genetics and Molecular Biology

利用可能数：63タイトル

○Medicine

利用可能数：172タイトル

○Neuroscience

利用可能数：66タイトル

○Pharmacology, Toxicology and Pharmaceutics

利用可能数：40タイトル

5. I D E A L (Academic Press)

利用可能数：228タイトル

医学部購読数：16タイトル

医学部においては2001年に引続き日本イデアル・オープン・コンソーシアムに参加することで、228タイトル全てが利用可能です。

以上により医学部では五大出版社の医学関係

の電子ジャーナル全てを、研究室から24時間利用できる環境が整うこととなります。

また図書館では、教育・研究の支援組織として、最新の学術情報を入手できる環境の維持・整備に努めたいと考えています。

先生方のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(文責：雑誌情報係有馬秀子)

西條誌稿本CD-ROM完成

本館所蔵貴重図書「西條誌稿本」が、西条市との共同事業でCD-ROM版として作成されました。西条市制60周年記念事業として、受託研究を受けたもので、市内の小・中学校や図書館等で利用してもらうことにしています。

平成13年10月27日(土)には、西条市役所において完成記念式典および監修された内田九州男法文学部教授による記念講演会が行われ、地元新聞等で広く報道されました。

また、附属図書館ホームページでも公開し、インターネットで見ることができます。

「西條誌稿本」は、第9代西條藩主松平頼学(よりさと)の命により、儒学者日野和煦(にこてる)が、天保7年から13年にかけて編術し、領内70ヵ村の事情をとりまとめた地

誌です。

西條藩の版図は、現在の東予市から川之江市にいたる広い範囲にわたり、西条市をはじめとして地域の郷土史研究の基礎的宝典史書として読まれてきました。

大学図書館と地方自治体が連携協力して地域の特色ある情報を発信し、地域に貢献しようとする事業は、全国的にもめずらしく新たな試みとなるものです。



「えひめITフェア21」に出展

10月13日(土)、14日(日)の両日にわたり愛媛県などが主催する「えひめITフェア21」に出展しました。

このフェアは、「IT」関連産業の育成や開拓を図るとともに愛媛県の産業情報施策を県内外に発信するため、ソフトウェアや機器の展示を行う目的で開催されたものです。

図書館では、「大学図書館のサービスは今!」をテーマに電子的文献情報、ドキュメントデリバリーサービス、県内大学統一オンライン蔵書目録、電子図書館句碑めぐりなどネット

ワークを中心とした出展のほか、図書館の市民サービスなどを職員手作りのパネルで情報提供の現状と展望を紹介しました。

特に、「電子紙芝居」による出展品目のスライドショーや古文書の電子展示と原本の比較展示など熱心に見学され、市民の大学に対する期待の大きさや日頃疎遠な大学図書館に対する興味の強さが感じられ、今後も機会があれば引続きアピールする必要性を痛感しました。

学術講演会を開催

10月31日(水)、図書館情報大学植松貞夫副学長及び千葉大学附属図書館長土屋俊教授を講師に招いて、平成13年度学術講演会を開催しました。

植松副学長は、「デジタル情報化時代における大学図書館とその建築」をテーマに、デジタル情報化時代における専門的な知識と技術の進展による大学図書館サービスの高度化及びアメニティーにも配慮したメディアミックス型の快適な利用環境のための建築のあり方について外国の事例を交えて講

演されました。

また土屋教授は、「大学改革をささえる電子ジャーナル」をテーマに、大学改革の展開の中で、大学改革をささえる電子ジャーナルを中心とした大学の研究基盤再構築への現状と展望について講演されました。

さらに図書館から「SweetScanコンテンツサービス」の利用案内を行いました。

学内の教職員や院生をはじめ、県内の大学図書館職員など多数の参加があり、大変有意義な学術講演会となりました。

本館からのお知らせ

学部の1年生から書庫が利用できます！

これまで、教職員及び学部の4年生以上しか書庫に入ることができませんでしたが、書庫内の設備を整備することにより、平成14年1月から教職員及び学部の1年生以上から書庫に入って書庫内の図書、雑誌を閲覧することができるようになりました。

また、書庫に入ることができる利用時間も平日の場合、これまでの17時から21時30分までに延長いたしました。加えて、土曜、日曜日にも16時30分まで利用できますのでご利用ください。

なお、これまでどおり書庫を利用する際は、カウンターに申し出てください。

本館1階閲覧室の新作雑誌コーナーをリニューアルしました！

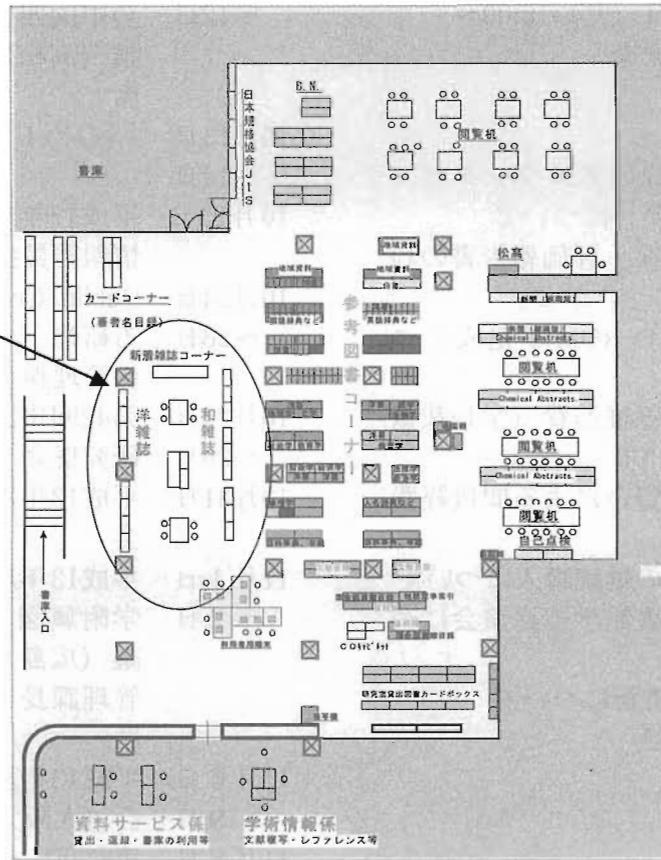
本館1階閲覧室の新作雑誌コーナーを図書館の研究支援機能向上の一環として、平成14年1月にリニューアル致しました。

これまで、1階閲覧室の北側にあった新作雑誌コーナーを1階閲覧室の利用し易い入口の方に移設してリニューアルしました。(次頁図参照)

ここに、約150誌の外国雑誌及び約110誌の和雑誌の新作雑誌を配架してあります。最新の学術情報などを閲覧できますのでご利用ください。

1階 配置図

リニューアルした
新着雑誌コーナー



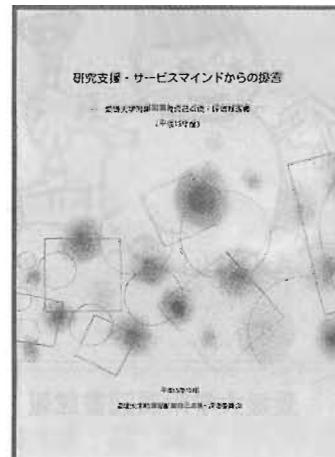
附属図書館自己点検・評価報告書を刊行

「研究支援・サービスマインドからの提言」と題して、附属図書館自己点検・評価報告書を刊行しました。

今回の点検・評価は、研究者支援サービスを中心に行うこととし、従来の報告書でもふれてきた、発注・整理・貸出等の資料管理、利用時間・相互貸借・レファレンスサービス・ドキュメントデリバリーサービス・オンライン情報サービス等の利用サービス、また教官の図書館利用アンケートに加え、電子ジャーナルの利用実態と意向、附属図書館将来計画委員会を中心にした電子ジャーナル化に対する検討状況など、21世紀に新たに直面している諸課題について

も点検・評価を行っています。

学内や全国の関係機関へ配布したところ、多方面から好意的な評価を寄せていただいております。



附属図書館委員会

平成13年度第3回附属図書館委員会

日時 平成13年11月19日(月) 16:00～

場所 附属図書館視聴覚室

議事

[報告事項]

1. 「教育環境改善経費のアカウントビリティに関する懇談会」について
2. 附属図書館自己点検・評価報告書の刊行について
3. 「西條誌稿本」CD-ROMの完成について
4. 平成13年度教育改善推進費(学長裁量経費)の配分について
5. 平成13年度競争的資金による間接経費の配分について
6. Chemical Abstractsの継続購入について
7. 平成13年度附属図書館学術講演会について
8. 図書館システムの更新について
9. 書庫の整備について
10. 分館近況報告
11. その他

[協議事項]

1. 電子ジャーナルへの対応について
2. その他



図書館日誌(会議, 研修)

- | | |
|--------|---|
| 10月11日 | 平成13年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議(高松)資料サービス係長出席 |
| ～12日 | |
| 10月13日 | 「えひめITフェア21」出展 |
| ～14日 | |
| 10月22日 | 平成13年度第4回医学部図書・情報委員会 |
| 10月24日 | Dublin Coreとメタデータに関する研修(学術総合センター)情報管理課長出席 |
| ～26日 | |
| 10月24日 | 第42回中国四国地区大学図書館研究集会(高知) |
| ～26日 | |
| 10月31日 | 平成13年度附属図書館学術講演会 |
| 11月1日 | 平成13年度中国四国地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議(広島大学)事務部長・情報管理課長・情報サービス課長出席 |
| ～2日 | |
| 11月6日 | 平成13年度大学図書館職員講習会(大阪大学) |
| ～9日 | |
| 11月8日 | 第37回日本医学図書館協会中国・四国部会総会(米子)医学部分館情報サービス係長出席 |
| ～9日 | |
| 11月12日 | 平成13年度第2回農学部分館運営委員会 |
| 11月19日 | 平成13年度第3回附属図書館委員会 |
| 11月28日 | 第14回国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区)(京都大学)図書館専門員・雑誌情報係長・医学部分館資料情報係長・係員出席 |
| ～29日 | |
| 12月21日 | 平成13年度第5回医学部図書・情報委員会 |